



第 178 回友の会春日山公園 自然観察会



～湖西の里山を歩く～

日 時：2020 年 3 月 29 日(日) 10:00～14:15

場 所：大津市堅田 県営春日山公園

コース：JR 堅田駅～春日山公園（入口～展望台～湿地～万葉ゾーン～湿地・ビオトープ～近世の苑ゾーン～入口）

天 候：晴れ

参加者：一般 14 名（内子ども 2 名）、スタッフ 18 名 合計 32 名



前夜からの雨も朝方には上がり天気も回復、いい観察日和でした。新型コロナウイルス対応として、受付前にアルコールで手を消毒してもらい、マスクを持ってない人には会で用意をしました。10 時堅田駅西口に集合、リーダーから春日山公園とコースの説明（棚田・里山・古代米・鮎 PJ の HP 掲載の生き物データベースでは 482 種の生き物が挙げられているなど）のあと人数確認。参加者は新型コロナウイルスの影響か、いつもより少なく 32 名でした。駅から西へ向かい、さっそく観察開始。植え込みの園芸のセイヨウツゲ（ボックスウッド）が淡い黄色の花をつけていました。開発中の住宅地を道路に沿って歩いて行くと、ヒメオドリコソウやオオイヌノフグリ、ホトケノザ、ムラサキサギゴケが小さな花をつけ春の路傍を彩っています。開花したソメイヨシノは寒気のもどりでもまだこれから。ため池にはコガモなどもみられました。道路を渡り春日山公園に入りました。この公園の古墳ゾーンには春日山古墳群（7 世紀頃までに作られた古墳が 200 基以上ある湖西最大の古墳）があります。馬の顔に見えるホトケノザの花をじっくり



り観察したら、まず展望台へ向かい樹林の中の道を登っていきます。湿った法面にはショウジョウバカマが何株も咲いていました。観察のあと説明が始まり、名前の由来や不思議な繁殖形態が話されました。花が咲いている時は10～30cm程の茎を実ができる時にはなんと50～70cm程にも伸ばし種子を風に乗せ遠くへ飛ばすこと、そして常緑の3年葉は枯れる前に地面に接する葉先から栄養繁殖体の新個体をつくり子孫を増やしていくことなど知らなかった不思議な形態に、旧知のショウジョウバカマを見直しいとおしくなりました。

展望台からは琵琶湖と沖島、三上山や長命寺山がよく見えました。道の脇にはスミレがたくさん咲いていて、この日は4種類（シハイスミレ、ニオイタチツボスミレ、ツボスミレ、タチツボスミレ）ありました。スミレの説明では世界に23属800種（内21属500種は木本だとか）あり、日本にはスミレ属のみが自生しスミレ（種名）もあり紛らわしい。スミレ属は3色（紫、黄、白）の系統に分けられ海岸から高山まで幅広く分布し、大きく地上茎のあるものと無いものに分けられ、さらに葉の形その他で細かく分類され種類は50～100種以上といわれています。

林の中ではコナラ、アベマキ、リョウブ、ヤマツツジ、イヌツゲ、ヤブコウジ、コバノガマズミなど次々に現れます。ツバキは受粉したらなぜ花を落とすのか、鳥に受精した子房を突かれることを防ぎ実を守るためというのも興味深かったです。リョウブの新芽のオリーブグリーンが目には鮮やかでした。コナラの木のところでは萌芽更新の話で、かつてこの辺りは薪炭林として利用されていたあかしで里山の人と林（自然）とのかかわりを知りました。ヤマザクラはすでに花が終わっていました。シュンランが一つ林内でひそかに咲いていたのに出会えたのは幸運でした。下見の時は蕾だったオオイワカガミも咲きだしていました。名の由来や葉の大きさにコイワカガミと見分けることなど説明されました。またオオイワカガミは日本海要素の植物と知りました。イワナシも一つ落花が残っていました。イワナシもオオイワカガミも関西では里山でも見かけるが、他地域では高山の花であり珍しいとのこと。

男の子が枯れ枝についたブヨンプヨンのタマキクラゲを見つけました。食べられると聞いてクヌギやアベマキの枯れ枝でたくさん見つけられていました。シロキクラゲもありました。クチベンタケも口紅を落として残っていました。奥の湿地でツボスミレやムラサキケマンなどを見て引返しました。万葉ゾーンへ向かいキツネノボタンの咲きかけの黄色い花をみて休憩舎のあるところで昼食。風は冷たいものの日差しもあり気持ちのよい天気。前にはカツラの雌花、トサミズキやミツマタ、ボケの花も咲いていました。昆虫類が少なかった



ショウジョウバカマ



オオイワカガミ



シュンラン

ので食後スタッフが虫探し、小さなコオログや甲虫の幼虫が見つかりました。そのあと細菌など微少な生き物の話があり、赤錆のもと鉄細菌や道中にあったイシクラゲ（地球の O_2 を創り出したシアノバクテリアのなかまでネンジュモ属の一種で食用になる）が紹介されました。ツクシの孢子が温かさと湿度ではじけているところを顕微鏡でとった動画と動物より複雑なスギナの生活形（栄養葉と孢子葉など）の話が興味をひきました。

店開きでは、今日出会った新芽の紹介、カツラ、リョウブ、エゴノキ、ヒサカキ、アセビ、イヌビワ、ネジキ、ウリカエデ、ヌルデ、アラカシ、ヤマヤナギ、コウヤボウキ、アオキ、モチツツジ、ツクバネウツギなどを見せてもらいました。ヨメノヌリバシといわれるネジキの赤い新芽は、ザイフリボク、コクサギとともに「日本三大美芽」といわれているそうです。午後は、湿地からビオトープエリアへ向かいました。オオイヌノフグリとハコベがパッチワークのように群生していました。ヤマネコノメソウやアオキの雄花を見ました。ビオトープではニホンアカガエル？が美しい声で鳴いていましたが姿が見えず残念でした。近世の苑ゾーンへ回ると、ギシギシの葉にコガタルリハムシがいました。カクレミノの大きな木で葉の変異を見たり、クヌギの枝先のどんぐりのあかちゃん？をルーペでのぞいたあと公園入口に戻り解散しました。

平尾繁和



何になるのでしょうか？



ニホンアカガエル



オオカマキリ



コガタルリハムシ



ハラビロカマキリ



クチベニタケ



タマキクラゲ



ヒサカキ



コバノガマズミ



ミツマタ



アラカシの新芽



カツラの雌花



トサミズキ



ムラサキケマン



オオイワカガミ



カキドオシ



キツネノボタン



ツボスマイレ (ニョイスミレ)



タチツボスマイレ



ニオイタチツボスマイレ



シハイスミレ

